

【大倉 雅夫先生抄録】

【"エビデンスに基づく模型傾斜義歯設計法" ハンズオンセミナー】

私たち歯科技工士は一般的にサベイヤーにて義歯着脱方向を決定し、アンダーカットゲージを用いて垂直設計法により各種維持装置を設計します。

模型傾斜設計法ではアンダーカットゲージは使用しません。義歯着脱方向を決定しサベイラインを描記します。そして模型を任意の角度に傾斜させ義歯着脱方向に対して新たにアンダーカット量をもつサベイライン(クラスプ設計ライン)を描記します。個々の様々な歯牙形態をアナライズしたクラスプ設計、また口腔内軟組織の形態的な関係が分析可能です。

今回のハンズオンセミナーでは模型傾斜設計法の理論と通常のスベイヤーと MDJ (マルチデザインジグ) を用いて樹脂クラスプ(ノンメタルクラスプ)をはじめ各種維持装置の設計法をお伝えします。

技術的経験値にとらわれず誰でも簡単正確に各種クラスプ設計ラインを実線で描くことが可能です。また、模型傾斜角度と垂直設計法(アンダーカットゲージ)のアンダーカット量との関係を検証し鉤歯補綴時のプレパレーション(waxup 法)についてもご紹介いたします。